

西宮神社（えべっさん）の森を探訪 レポート

（西宮神社と夙川河川敷緑地と樹齢 600 年の保存樹木を探訪）

講師	吉村元男氏（風景造園家、野生のランドスケープデザイナー）
日時	2019年6月8日（土曜日）14時から17時
主催	日本建築家協会大阪建築部会 樹木と街分科会
参加者	14名 資料 吉村先生のレジメ「鎮守の森とは何か」「夙川河川敷緑地」
場所	探訪「西宮神社」レクチャー「西宮神社 茶屋縁台にて」



■夙川河川敷緑地のランドスケープ ■西宮神社の参道

■西宮神社境内



■夙川河川敷緑地の松の木

■西宮神社の大練塀と鎮守の森

■海清寺樹齢 600 年の保存樹木

都市の中の鎮守の森「西宮神社」と夙川河川敷公園

持続可能な生物多様性社会に向けた文明、都市のあり方についての提言。

- 1、都市の中の鎮守の森 西宮神社は周辺から屋根越しに緑のランドマークとしてその森を眺めることができる。神社にたたくと空は緑で覆われ、森の中にいるようだ。都市のシンボルであり、他の場所と異なるノードとなる。大練塀は、エッジとして西宮神社のイメージをさらに増幅する。そして参道はパスとして神社のイメージ形成に大きな役割を持っている。（ケビン・リンチ『都市のイメージ』参照）
- 2、河川敷緑地 1937年事業費34万円で兵庫県西宮市の努力によって今の形が完成した。
- 3、樹齢 600 年の保存樹木 市役所周辺はこのような大木が点在する風景を作り出している。

吉村先生ありがとうございました。

（文章 塚口明洋、写真 青砥聖逸）